

編集後記

- <*> 前号でお知らせしましたように、本年度より本研究懇談会会誌の編集委員が増員されました。裏表紙にありますように、名古屋工業大学の和田先生を編集委員長として、15名の編集委員で出発しました。本号では会誌の内容について、まだ十分な討議ができませんでした。次号からは新しいアイデアや企画により、さらに充実したものになるものと思います。
- <*> 巻頭言の欄には筑波大学の河寫先生に御執筆いただきました。また、海外からの指標の欄には米国のMottola教授にご寄稿いただく予定でしたが、残念ながら今回には間に合いませんでした。次回には掲載できるものと思います。
- <*> 総説欄には酵素リアクターを利用するF I A法について、大阪府立大学の八尾俊男先生にご執筆いただきました。
- <*> 今回の会誌には、多くの研究報告の投稿がありました。特に国外から4報もの投稿があり、これは昨年熊本で開催されたFlow Analysis Vにおける本研究会誌の外国研究者へのPRの賜物ではないかと思われます。また、リンのF I A装置の8年間にわたるフィールドでの性能試験の報告は驚くものがあります。この会誌では、新規なF I A法の開発に関する論文のみならず、ユーザー側からの種々のF I A法の利用状況やその結果についての報告も掲載し、これによりF I A法の国内での普及発展に貢献できれば、この研究懇談会の意義も大きいものと思われます。
- <*> 学会情報及び文献情報の欄では聖マリアンナ医科大学の内田先生及び神戸女子薬科大学の馬場先生には大変なご苦勞をおかけしております。この場を借りてお礼申し上げます。
- <*> 第16回フローインジェクション分析講演会が、本水先生のお世話で岡山大学で開催されます。多くのご参加をお待ちしております。
- <*> 本号には会員名簿を掲載致しております。誤りや変更がございましたら、事務局まで御一報下さい。また、新入会員のお誘いなどいただければ幸いです。
- <*> 編集委員会では本誌への多数の御寄稿をお待ちしております。

(今 任 稔 彦)